

もし再発したら
第7回兵庫県立がんセンター
がんフォーラム

兵庫県立がんセンター
腫瘍内科
松本光史

もし再発と言われたら・・・

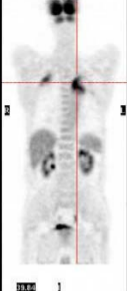
- 「落ち着いて、確認しましょう」
- 「正しい知識を得ましょう」
- 「味方を増やしましょう」

落ち着いて、確認しましょう

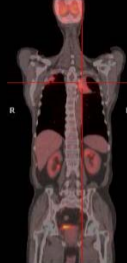
- 「再発？それとも再発の疑い？」
 - 「腫瘍マーカーが上がった」は必ずしも再発ではない
 - 「PETで光った」も必ずしも再発ではない
- 「再発後の治療の目標は？」
 - 次の治療の目標は？治癒？延命？症状緩和？
 - 治癒を目標とできる（すべき）再発もある



39.84 I
CT Coronals



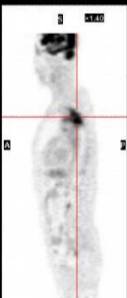
39.84 I
PET Coronals



39.84 I
Fused Coronals



S +1.40



S +1.40

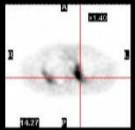


S +1.40

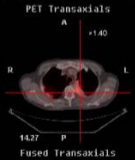
炎症性変化
へのFDGの
集積 (疑い)



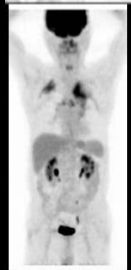
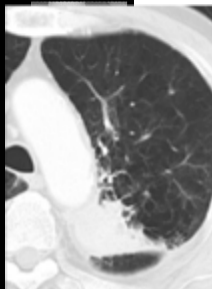
14.27 P
CT Transaxials



14.27 P
PET Transaxials



14.27 P
Fused Transaxials



治療の目標は？

- 治癒
- 延命
- 症状緩和

がんの状態、ご自身の状態により様々です。
主治医の説明をしっかりと聞きましょう。

治癒を目指せる再発の例

- ・ 「化学療法に極めて感受性の高い癌の再発」
白血病、リンパ腫、胚細胞腫瘍、絨毛癌など
⇒化学療法で治癒のチャンスがある場合も
- ・ 「一部の癌の、局所に限定した再発」
頭頸部癌、乳癌など
⇒手術又は放射線療法で治癒のチャンスがある場合も
(ケースバイケースで、治癒を目指せないこともある)

但し一般には、「治癒を目指せる再発」は少ない
⇒何故か？

⇒正しい知識を得ることが重要

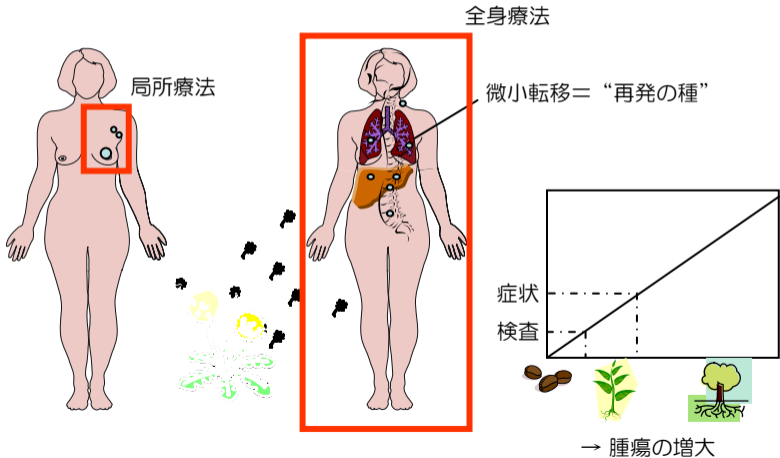
もし再発と言われたら・・・

- ・ 「落ち言いて、確認しましょう」
- ・ 「正しい知識を得ましょう」
- ・ 「味方を増やしましょう」

正しい知識を得ましょう

- 一般に、再発がんを治癒させるのは困難です。
 - 「微小転移」
 - 「個人差の大きさ」
 - 「耐性」
- 主治医と治療の目標を共有することが重要です。
 - 「上手く付き合う」とは
 - がんの4大治療とは

微小転移とは？



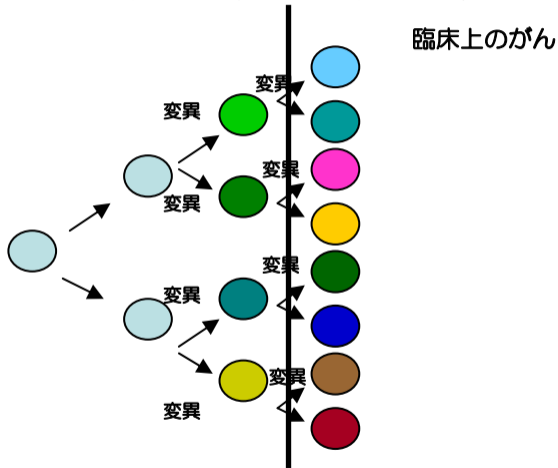
個人差とは？

- がんは、ヒトが元々もっている細胞に、(複数の)遺伝子異常が積み重なった結果起きる
 - 元々の細胞にも当然「個性」がある
 - 抗癌剤への抵抗力にも当然「個性」がある
 - 正常細胞の抵抗力にも当然「個性」がある
- 臨床試験の結果「標準治療」とされた治療を受けても、その結果は様々である
 - 見えなくなる位がんが小さくなるヒトもいれば、
 - 治療していないかの如く増大するヒトもいる (効果の個人差)
 - 日常生活にほとんど支障のない程度の毒性で済むヒトもいれば、
 - 致命的な毒性になってしまうヒトもいる (毒性の個人差)

耐性とは？

- 同じ種類のがんでも、遺伝子異常の種類、個数、程度はヒトにより千差万別
 - がんの増殖過程で、更なる遺伝子変異が積み重なるため、一人のヒトの中にも様々なタイプのがん細胞がある
- ⇒「耐性」の原因になる

実際のがんは極めて不均一な細胞の集団



再発がんの治療が困難である理由の一つ

「上手く付き合う」とは？

- 「できるだけつらくない状態を」 = 症状緩和
- 「できるだけつらくない方法で」 = QOL重視
- 「できるだけ長く保つ」 = (可能な限りの)延命

そのための具体的な方法は？

⇒がんの4大治療についてご紹介します

がんの4大治療

- ① 手術療法
- ② 放射線療法
- ③ 化学療法
- ④ 緩和療法

「局所治療」と呼ばれる。
微小転移が全身に存在する可能性が高く、
通常メインの治療手段にはならない。
但し、症状緩和目的で行うことはある。
「全身治療」と呼ばれる。
微小転移が存在しても効果が期待できる為、
通常メインの治療手段になる。

「化学療法」と「緩和療法」は随分イメージが違う。
どちらかを選べと言われても・・・

化学療法に対する正しい知識

- 全身の微小転移を攻撃できる、唯一の治療手段
- ただし、毒性を伴う。完全な予測は困難
- 効果も、毒性も、個人差が非常に大きい
- 臨床試験の結果得られた根拠に基づく、「標準治療」を受けることが重要です
- 臨床試験に参加する選択肢が提案されたら、「未来の標準治療」を先取りするチャンスかも

化学療法のメリットとデメリット

化学療法のメリットもデメリットも、
今はまだ完全には予測できません。
まず正しい知識を得ましょう。

メリット
延命効果
症状緩和



デメリット
毒性
通院負担
コスト

化学療法か緩和療法を考える

-化学療法のメリットとデメリット-

- 「メリット」に関する情報
 - 延命効果の見込み：「無増悪期間」「全生存期間」
 - 症状緩和につながる腫瘍縮小の見込み：「奏効率」
 - 今までの治療の種類、その効果も考慮に入れて予測
- 「デメリット」に関する情報
 - 毒性の発現頻度、その種類、強さ
 - スケジュール、コスト
 - その時点での体調が、毒性に大きく影響します
 - 合併症の有無も、毒性に大きく影響します

もし再発と言われたら・・・

- ・「落ち言いて、確認しましょう」
- ・「正しい知識を得ましょう」
- ・「味方を増やしましょう」

味方を増やしましょう

- 「家族」：最も頼りになるサポーター
- 「友人」：話を聞いてくれるだけでも全然違います
- 「同僚」：仕事のこと
- 「医療者」：色々な職種の人のサポートを受けましょう
 - 「医師」：主治医、かかりつけ医、緩和ケア医、セカンド医
 - 「看護師」：生活の指導、セルフケアのこつ
 - 「薬剤師」：薬のこと全般、飲み方のこつ、副作用等
 - 「栄養士」：食事全般、食材、調理、補助食品等
 - 「CRC」：臨床試験のこと、薬のこと、手続きのこと

治療の選択：メリットとデメリット

価値観・死生観が重要

「どちらがより正しいか」ではなく、
「どちらがよりあなたらしいか」



デメリット

毒性

通院負担

コスト

あなたができること

- 「再発した」自分を責めない
- 「がんばらない」でも「あきらめない」

-諏訪中央病院名誉院長 鎌田實先生の言葉より-

家族・親戚が再発したとき

- 安易に「もっと頑張って」と言わない
- 家族は一緒にいるだけでも支えなのです

もし再発と言われたら・・・

- 「落ち着いて、確認しましょう」
- 「正しい知識を得ましょう」
- 「味方を増やしましょう」

ご静聴ありがとうございました